

**こどもみらい館 第4期研究プロジェクト スタート**

平成28年度から、保育園（所）・幼稚園、私立・市立・国立の垣根を越えた「共同機構」として、二つのテーマで研究プロジェクトがスタートしました。

子どもの心の育ちの連続性

子どもの心がどのように育っていくか、就学前と小学校入学後の姿を追い、就学前施設の保育者や小学校教師の心持ちの在り様を探ります。

研究方法

- 1年目には就学前施設での様子，2年目には同じ子どもの小学校での様子を追跡し、エピソード等から検討します。
- 小学校教員と共に協議します。

研究メンバー**個人メンバー**

太田 薫（洛陽第二幼稚園），押領司敬子（白菊こども園），木村由里（吉田山保育園），小泉公平（京都市辰巳保育所），小寺玉枝（京都市三条保育所），田中康雄（光明幼稚園），田淵久美（京都市立開晴小学校），中岡雄介（京都市立待賢幼稚園），丸田純子（京都市立西院幼稚園）（敬称略）

フィールド校園

外園知子，土居里己，山本佳奈，中東静香，平松美和（京都市立中京もえぎ幼稚園）
岸田蘭子，上田愛弓，兒玉由希子，向井文子（京都市立高倉小学校）（敬称略）

子育て支援（気持ちに寄り添う保護者支援）

保護者が何に困り何を求めているのかについて、基本的枠組みを作ると同時に、様々な保護者に個別に対応するためのアイデアを集め、保護者との関係を築いていく方法を探ります。

研究方法

- 各園（所）の現状を出し合い、保護者の抱えるしんどさを捉えるために子育て支援施設の視察や討議を行います。
- エピソードなどを使って事例を検討し、保護者の困り感やしんどさを理解するための基本的枠組みを作成します。

研究メンバー

石田快子（京都市保健福祉局子育て支援部保育課），植田真千子（佛教大学附属幼稚園），佐々木典子（今宮幼稚園），杉田のり子（メグミ幼児園），瀬戸口直美（京都市壬生保育所），高田仁美（京都市立翔鸞幼稚園），奈良美保子（京都市立みつば幼稚園），渡邊真里子（京都市楽只保育所）（敬称略）

遊びを通して保育を考える

講師 鯨岡 峻 京都大学名誉教授

遊ぶ主体は子どもです。子ども自らが遊ぶのです。しかしそれは、保育者がただ見守っていればよいということではありません。だからといって、保育者が主導して「あれをさせる」「これをさせる」して遊ばせることでもなければ、このように環境を構成すると遊びがこのように盛り上がったというような話でもありません。

保育は、一人の子どもの主体としての心を育てるところにその主眼があります。子どもが保育者や友達とかかわるなかで、一人の主体としての子どもの心がいかに育っていくかが重要であり、そこを見るために遊びは欠かせないということです。

そのためには、遊びを外側から眺めるのではなく、子どもの内面の動きに目を向けなければなりません。そこで、「接面」という概念が重要になります。接面とは、気持ちを向け合う人と人とのあいだに生まれる独特の空間、雰囲気のことです。そこを通して感じ取られてくるものを基盤に、いかにそれを肯定的に映し返すか、遊びの場面で傷つく子どもをいかに慰撫し、また遊んでみようという気持ちが立ち上がるようにもっていくか、どうすればその子の「こうしたい」という気持ちをもっと燃焼させられるか、等々が大切なのです。遊ぶ主体は子どもであると言いながら、実は大人の対応の在り方が子どもの遊びの充実に大きな意味をもつのです。

ただ、子どもの内面の動きは、接面にいる当事者にしか感じ取ることができません。子どもの内面の見取りや保育者の対応の在り方がどうであったかを自分で振り返ったり、他の保育者と話し合ったりするには、接面での体験をエピソードに描かなければ伝えることはできません。ぜひ、日々の保育の中で生まれている子どもとの接面に目を向け、そこで起こっていることをエピソードに描き、子どもの遊びを見直してみてください。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。貸出要項へ
講義の詳細は、要録ページをご覧ください。要録ページへ



～共同機構研修会要約をこどもみらい館 ホームページでご覧いただけます～

こどもみらい館では、ホームページ内共同機構のページから毎回の講演内容の要約をご覧ください。忙しくて共同機構研修会に参加できなかった方、当日の話をもう一度振り返って自己研鑽したい方、また各園所の職員研修などで是非ご利用ください。

平成28年度の要約とDVD

- ◎ 鯨岡 峻 京都大学名誉教授
【遊びを通して保育を考える】
(4月27日実施分)
- ◎ 大倉得史 京都大学大学院准教授
【気持ちに寄り添う保護者支援とは】
(5月18日実施分)

DVDのみ

- ◎ 乳幼児揺さぶられ症候群

※過年度(平成16年度～)に開催した講義の要約もどうぞご覧ください。

気持ちに寄り添う保護者支援とは

講師 大倉 得史 京都大学大学院准教授

そもそも子育て支援はなぜ必要なのでしょうか。

本来、一個の生命が誕生し、自分とは別個の主体として育っていく過程には、自分の「思いどおり」にはならない、どうにもならない側面がつきまといます。若い時に自己充実を目指して生きてきた「自分中心」の態度から、自分のことはさておき、「子ども中心」へと一変する生活スタイルを引き受け、そこに積極的な喜びを見出していくことが求められます。

若い人たちは、子育ての負担感が大きく感じられ「子育ての仕方が分からない、誰にどう頼ったら良いのかも分からない、半ば頼りたくもない」という不安と孤独の中で手探りの子育てをしています。その中で若い親を支える人として保育者の役割は重要です。育てるといふ営みを次の世代へと引き継ぎ、若い親御さんがより成熟した「育てる者」へとになっていくプロセスを支える、いわば社会の命運を握る役割が保育者に課せられているのです。

子育て支援のための関わりの基本として、保護者がどんな状況に置かれ、どんな思いを抱えているのかを引き出し、状況を受け止めていくことに心を砕いていただきたいとします。その人を取り巻く空間、時間を想像しながら、その中で現在その人がどの位置にあるのかを把握することが深い理解に繋がります。そのようにして大変さや困り感を共に味わい、保護者と保育者で試行錯誤し合っているという構図を作り上げることが大切です。また、保護者の目が子どもの心に向くように誘うことも大切です。子どもの気持ちの動きがつかめると、我が子を愛おしく思う保護者の愛情が活性化してきます。そのようにサポートしていくことが大事です。

子育て支援とは、保護者と深い情緒的交流をしながら、現代社会において育児をする大変さを共に味わい、対処を考え、我が子に対する保護者の愛情をより強いものにし、それが望ましい形で実現されることを支援することなのです。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。[貸出要項へ](#)
講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。

～共同機構研修をDVDでご覧いただけます～

こどもみらい館では、講師の方のご了解をいただき、講演内容のDVD・ビデオを職員研修に限って貸し出しています。こどもみらい館ホームページ(<http://www.kodomomirai.or.jp>)をご覧ください。総務課(tel.254-5001)までお問い合わせください。

※過年度(平成16年度～)に開催した講義のDVD・ビデオの貸出も行っております。どうぞご利用ください。



貸出方法

1. 電話で借りるDVDの予約をします
2. DVDを受け取る際には利用申込書(様式1)を提出して下さい
3. 一度に5本まで、期間は1ヶ月借りることができます
4. 利用報告書(様式2)を添えて返却してください

詳しい方法や必要な用紙は[こどもみらい館HP共同機構のページ](#)をご覧ください

今年度も保育者を目指す学生さん向けの講座を開講し、多くの方に参加していただいています。保育士・幼稚園教諭を志望している学生に対し、大学で身に付けた専門的な知識と保育現場の実践を融合させる場として、子育て中の保護者や現場保育者の生の声などから学ぶことを目的としています。

こどもみらい館ならではの取組として、公立、私立それぞれの保育園（所）、幼稚園、認定こども園から現職の先生を招いての実践的な遊びを学んだり、保育者の関わりを間近に感じながらこどもみらい館主催の子育て支援事業に参加し、親子と触れ合うこともできます。

6/5(日)
「手遊び、ふれあい遊び等の実習」

乳児編では赤ちゃん向けにやさしく触ったり、歌ったりする心地よいわらべうた、幼児編では楽しい手遊びやつながり遊びを学びました。学生は実践をとおして、ふれあい遊びから人との愛着関係が育まれること、また、友だちとつながる楽しさや手遊びの面白さを感じることができました。

講師（現職保育者）からは手遊びやふれあい遊びは形や振りを真似るだけの遊びではないこと、子どもを集めるための手段でもなく、子どもとの信頼関係を築ける大切な遊びであると教えていただきました。



学生のための保育者養成講座

すぐきな先生になろう！ 子どもと関わるってどんな感じ？

6/19(日)
「絵本・パネルシアター等の紹介と現職保育者との交流会」

前半は、現職保育者が園（所）で人気のある絵本やパネルシアターを実演し学生は子どもの気持ちになって体験しました。読み聞かせ一つ一つに保育者がどのような願いをもっているのか、また子どもはどんな気持ちで聞いているかなど、沢山の学びや気づきがありました。後半の交流会は先輩保育者を交え、疑問や悩みを皆で話し合いました。学生は実際に自分が保育者として仕事につくイメージが少しもてたようです。現在の持っている悩みや不安には、先輩保育者が自分も働き始めた頃は同じ気持ちだったと温かく寄り添いながら話を聞き、多くの学生が安心したり、この仕事へ夢を膨らませていました。

6/10(金)
「小麦粉粘土であそぼう」
子育てパワーアップ講座参加

パワーアップ講座は0歳～3歳位までの子どもさんとその保護者の方が専門主事（保育士）のリードで遊ぶ講座です。

学生は、親子の遊びを見守ったり、専門主事の遊びの進め方や親子への接し方を間近で見て学びました。保育者の仕事が生子への関わりだけでなく、子育て支援として様々な親の悩みを受け止めることや親子の関係づくりなどがあることを学びました。

6/26(日)
「教材実習vol.2 作って遊んでミニシアター」

子どもと一緒に作ることができるような身近な教材を使ってパペットを製作しました。学生は材料の準備の仕方、実際の保育で大切にすることなどを講師から学びました。その後、作成したパペットを使いグループごとにミニシアターを実践しました。ストーリーや小道具などを協力しながら作っていく作業は、周りの人と協力しあう大切さを知る機会となりました。また、講師のお話から、子どもたちがこの活動を行う際の援助の仕方について、配慮点なども学びました。

6/12(日)
「教材実習vol.1 小麦粉粘土」

3、4人のグループになり小麦粉から粘土を作って遊びました。子どもの気持ちになって小麦粉の様々な変化を楽しみながら、仲間と協力して作品ができあがる楽しさを体験しました。

講師からは保育実践の写真をしながら説明を聞き、活動のねらい、物的環境、子どもへの関わりと配慮など、具体的な保育の進め方などを学ぶことができました。

この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「京都はくくみ憲章」を実践しましょう！



発行日 平成28年 8月 20日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883
中京区間之町通竹屋町下る楠町601番地の1
Tel (075)254-5001 Fax(075)212-9909